

主な出来事

【内政】

- ゾウの大量死に関する検査結果の現状
- ロックダウン措置の解除
- 閣僚人事の発表
- マシシ大統領、5度目の隔離

【外政】

- マシシ大統領、SADC政治防衛安全保障機構(オーガン)新議長に選出される
- マシシ大統領、SADC首脳会合に参加する

【経済】

- デビアス社、総収入で大幅な下落
- 5月の燃料輸入が前年同期比で2倍近く増加
- ボツワナ、貿易収支で大幅な下落
- 70%超のボツワナ労働者、1万プラ以下の収入で生活

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ サレシャンド野党国会代表の国会活動一時停止処分

サレシャンド野党国会代表(以下、サ代表。)は、本年4月に開催された特別国会にて、マシシ大統領の親戚及びボツワナ民主党(BDP)党員がCovid-19関連の入札において不当に利益を得たと主張した。これに対し、冬の国会が開会した7月27日、スケレマニ国会議長(以下、ス議長)は右主張に係る十分な証拠の提出を求めたものの十分な証拠が示されなかったとして、翌7月28日、右発言の撤回を求めたものの、サ代表はいずれの要求に対しても応じなかった。そのため、ス議長は、国会議員によるサ代表を国会活動一時停止処分にするための採決を行い、その結果サ代表の1週間の国会活動停止が決定された。この決定を不服とするサ代表は、本処分が決定された29日、メディアに対し、「ス議長の決定に対し裁判所に申し立てを行う」旨述べた。8月3日、高等裁判所はサ代表の国会活動一時停止処分を、30日以内に開始される審査まで差し止めることとした。その結果、同日からサ代表は国会に復帰している。(7月31日:メヒ紙 5面、7月31日:ボツワナ・ガーディアン紙 4面、1日:ウィークエンドポスト紙 3面)

○ 反離党法案の提出延期

BDPの指導部は、物議を醸している反離党法案(国会議員及び地方議会議員の離党を困難にする憲法改正)の提出延期を決定した。同改正法案は、現在会期中の冬の国会に提出されるとみられていたが、審議予定の8つの法案の中には入っていなかった。バロピBDP事務局長はインタビューに対し、「具体的にいつと述べることはできないが、第12回国民議会の閉会前には提出され

るだろう。」「その際には法案も成熟しているだろう。諸法案は(国会にて)議論される前に成熟するものであるが、党として、同法案の内容を引き続き検討しなければならず、また、どのように国会討論に貢献できるか確認しなければならない」と述べた。(1日:ウィークエンドポスト紙 3面)

○ ゾウの大量死に関する検査結果の現状

7日、ボツワナ環境・天然資源保全・観光省は、セロンガ地区で発生したゾウの大量死に関する検査結果の現状について「一般的に使用されている農薬あるいは殺虫剤が死因として排除された他、脳筋炎ウイルス、骨・心筋の炎症並びに退化を特徴とする急性ウイルス性疾患、中枢神経疾患も死因として排除された。これまでの臨床データ及び検査結果に基づく限り、感染病原体は死因ではなさそうである。(死因として)疑われていた2つの無機成分および栄養不足あるいは飢餓も死因の可能性として排除された。これまで得られた結果は中毒による死亡を排除するものではなく、自然発生した毒物を含む環境要因が引き続き調査されている。」と発表した。(7日:ボツワナ環境・天然資源保全・観光省メディアリリース)

○ ロックダウン措置の解除

13日、クワベ保健大臣は国営放送BTVを通じ、7月31日午前0時からGreater Gaborone Covid-19ゾーンに課されていたロックダウン措置を13日深夜をもって終了する旨発表した。(当館注:なお、今回のロックダウン措置は3度目のロックダウン措置(Greater Gaborone Covid-19ゾーン限定)であり、1度目はボツワナ全土に対し4月2日から5月20日まで、2度目はGreater Gaborone Covid-19ゾーン限定で6月13日から同15日まで実施された。)(13日:官報)

○ 性犯罪統計

ケアベツウェ・マコベ(Keabetswe Makgophe)ボツワナ警察局長は、8月前半に開かれたPAC(公共会計委員会)において、憂慮すべきボツワナのレイプ発生率にも関わらず、多くの告訴が被害者により取り下げられるという傾向があり、結局一定数の被害者は殺害されてしまい、事件を複雑にしていると述べた。また、4月にボツワナ警察がウィークエンドポスト紙に共有した公式統計によると、2017年にレイプは2,074件発生し、2018年に2,064件、2019年にはこれまで最多の2,265件に達した。2019年世界人口レビュー(World Population Review)では、ボツワナは10万人あたりのレイプ率で92.9となり、南アフリカ(当館注:南アフリカは134.4)に次いで世界で二番目にレイプ発生率の高い国とされた。(15日:ウィークエンドポスト紙 1及び6面、21日:メヒ紙 8面)

○ カーマ前大統領による関与が噂される汚職事件に関する民間調査の結果報告

昨年10月、ボツワナ情報保安局(DIS)職員がマネーロンダリング等に関与したとして逮捕・起訴され、その後の裁判で汚職・経済犯罪担当局(DCEC)が提出した法廷証言書の中で、カーマ前大統領、ブリジット・モツェペ・ハデベ(Bridgette Motsepe Radebe)南アフリカ・全アフリカ議会大使

(南アフリカの実業家で、ラマポーザ大統領の義理の姉妹)らも1,000億プラ(約1兆円)のマネーロンダリング事件へ関与したと言及された。14日、本件に関しカーマ前大統領及びモツェペ大使が民間調査会社に法廷証言書の内容の真偽について調査させていたところ、調査が終了し結果が発表され、DCECによる法廷証言書は偽造されたものと結論付けた。(21日:ボツワナ・ガーディアン紙 4面、22日:ウィークエンドポスト紙 3面)

○ 閣僚人事の発表

26日、マシシ大統領は一部閣僚の交代を行った。ユニティ・ダウ外務国際協力大臣の辞職にとまない、レモハン・クワペ保健大臣が外務国際協力大臣に、エドウィン・ホラタオネ・ディコロティ農業開発・食料安全保障大臣が保健大臣に、カラボ・ソクラート・ハレ投資・通商産業副大臣が農業開発・食料安全保障大臣に、モレバツィ・シマネ・モレバツィ議員(マディナレ(Mmadinare)選出)が投資・通商産業副大臣にそれぞれ任命された。全ての任命は26日から発効される。(26日:ボツワナ大統領府プレスリリース)

○ マシシ大統領、5度目の隔離

25日午後、接触追跡により、Covid-19 感染者とマシシ大統領が接触した可能性が判明したことから、同大統領は自主隔離に入った。マシシ大統領の自主隔離は、今回の接触で、どれほどのリスクがあるのか確認すべく、より多くの情報を収集している間、十分な警戒心を持って行われているものである。(当館注:なお、マシシ大統領が自主隔離を行うのは今回で5回目となる)(27日:デイリー・ニュース紙 3面)

【外政】

○ マシシ大統領、SADC政治防衛安全保障機構(オーガン)新議長に選出される

14日、マシシ大統領は、テレビ会議方式にて行われた SADC 政治防衛安全保障機構(オーガン)会議に参加した。同会議にて、マシシ・ボツワナ大統領は政治防衛安全保障機構新議長に選出された。同会議後の記者会見にて、マシシ大統領は、「同会議内にて、レソト情勢に関するSADC調停者であるラマポーザ大統領及びマジョロ・レソト首相が、レソトの安全保障に係る進捗レポートを作成した旨発表した。また、コンゴ(民)については、同国内に設置している SADC リエゾン・オフィスを閉館する他、SADC 介入部隊(FIB)に関し国連と引き続き協議を行いながら、派遣の継続をしていく。モザンビークに関しては、インフラ及び投資を含めた安全保障問題の明確化を同国に求めた」と述べた。(17日:デイリー・ニュース紙 1及び3面)

○ 印大使のマシシ大統領への離任表敬

14日、モンゴレ(Mongole)印大使はマシシ大統領に離任表敬した。同表敬にて、マシシ大統領は、「ボツワナはダイヤモンドという資源を持っており、インドは財力及び技術を持っている。そのため、インドの重要な役割として、ボツワナの鉱物を活かすべく、ダイヤモンドのバリュー・チェーンを模

索すべきである。また、人口が多いインドはボツワナにとって経済を成長させるための重要なパートナーである。」と述べた。(17日:デイリー・ニュース紙 3面)

○ マシシ大統領、SADC首脳会合に参加する

17日、マシシ大統領は、テレビ会議方式にて行われた第40回 SADC 首脳会合に参加した。今般の首脳会合のテーマは「SADC: 平和と安全保障を構築し、開発と世界規模課題に対する強靱性を促進した40年」であった。また、同会議では、「VISION 2050」及び「VISION 2050」を実行するための「2020~2030年地域指針戦略開発計画(RISDP)」が承認された。(18日:デイリー・ニュース紙 1及び3面)

○ ボツワナ・バルバドス、問題点を共有する

19日、マシシ大統領は、ミア・モトリー・バルバドス首相とテレビ会議を行った。同会議では、両国の相互利益の問題について議論された。マシシ大統領は、ボツワナの経済アジェンダを進めるべく、新たな国との国際協力を模索し続ける旨述べた。(21日:デイリー・ニュース紙 1面)

○ 独大使のマシシ大統領への離任表敬

21日、ブレス(Breth)独大使はマシシ大統領に離任表敬した。マシシ大統領は、「ブ」大使に対して、任期中に行われた、職業訓練教育への支援を引き合いに出しつつ、「ブ」大使による独・ボツワナの二国間関係の強化に関する貴重な貢献に感謝の意を述べた。(24日:デイリー・ニュース紙 1及び3面)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

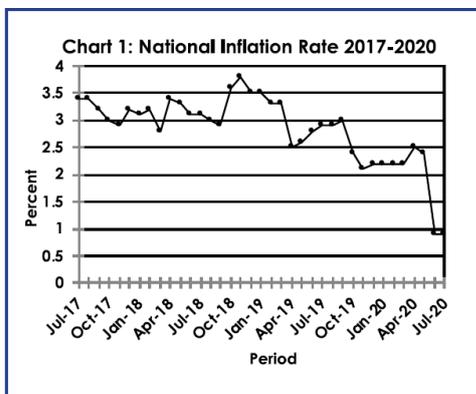
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2020年第1四半期(1~3月)(注:2020年第2四半期(4~6月)はまだ発表されていない。)のGDPは507億2680万プラとなり、2019年第4四半期(494億8850万プラ)と比べて2.5%増となった。(2019年GDP合計(歴年)は1972億6870万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2020年7月は0.9%(6月は0.9%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2020年8月31日

1プラ=0.085米ドル

1プラ=1.39南ア・ランド

1プラ=9.07円

2020年7月31日

1プラ=0.084米ドル

1プラ=1.40南ア・ランド

1プラ=8.91円

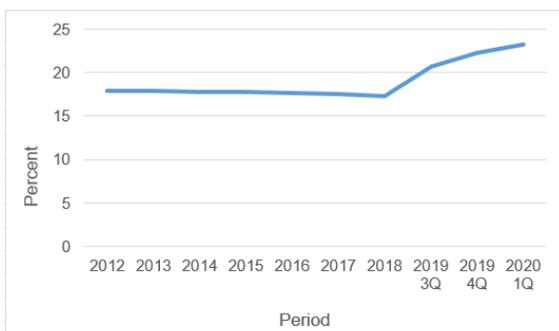
[米ドル] 為替推移(1プラ=0米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=0円)



4) 失業率(出典:Statistics of Botswana 及び World Bank)



○ ダイヤモンド

1) デビアス社、総収入で大幅な下落

2020年上半期におけるデビアス社の総収入は2019年上半期の26億米ドルに比して、54%落ち込み、12億米ドルとなった。同収入の減少は、Covid-19の影響によるものである。また、2020年上半期におけるダイヤモンド原石の販売は、2019年上半期の23億米ドルから大幅に減少し、10億米ドルとなった。(1日:ウィークエンドポスト紙 14面、2日:サンデースタンダード紙 ビジネス面、5日:ガゼット紙 ビジネス面、8日:ウィークエンドポスト紙 14面)

○ エネルギー・資源

1) 5月の燃料輸入が前年同時期比で2倍近く増加

2020年5月に発行されたボツワナ統計局のレポートによれば、2019年5月の燃料輸入額が6億5,430万プラであったのに対して、2020年5月は前年同時期の2倍(近く)にあたる10億プラ超の輸入額であった。これは、ボツワナ全体の総輸入額の22.8%にあたる。(5日:ガゼット紙 17面)

○ ボツワナ、貿易収支で大幅な下落

エコナサルト社の第2四半期経済レビューによれば、4月から5月にかけて、貿易取引はほとんどゼロに落ち込み、2020年5月の貿易収支は40億プラを超える貿易赤字となった。(12日:ガゼット紙 ビジネス面)

○ 70%超の労働者、1万プラ以下の収入

ボツワナ統計局によれば、ボツワナの2020年第1四半期における失業率は23.1%であった他、ボツワナ全体の労働者のうち、70%超の人々が1万プラ以下の収入で暮らしていることが明らかになった。(23日:サンデースタンダード紙 ビジネス面)

○ ボツワナ、経済再生のために430億プラが必要

4月から6月にかけて実施された最も厳格なロックダウン期間中、Covid-19対策に40億プラを費やしたボツワナ政府は、今後経済を回復させるために、この10倍の経費が必要である。マツェカ財務・経済開発大臣は、Covid-19の影響を抑え込むべく、新たな対策案を盛り込んだ改訂「NDP 11」を発表した。同大臣は、「2017年から2023年にかけて施行されている「NDP 11」の残りの期間(2020年から2023年)、Covid-19の影響により、収入は想定よりも11%減少することを見込んでいる他、大幅な赤字に対応するために、430億プラが必要である。」と述べた。(23日:サンデースタンダード紙 ビジネス面)

○ **信用レート4.25%のまま維持**

ペラエロ・ボツワナ銀行総裁は、ボツワナの経済活動を支えるため、基準割引率・基準貸付け利率(当館注:従来の公定歩合)を4.25%のまま維持することを発表した。(23日:サンデースタンダード紙 14面)

○ **クワペ保健大臣、母性及び新生児死亡率を懸念**

8月後半に催された記者会見にて、クワペ保健大臣は、妊産婦及び新生児死亡率が増加していることを懸念しており、本年の初めから43名の死亡が確認された旨述べた。「ク」大臣は、妊産婦死亡率の理由について、妊娠後の保健施設への来訪が遅いこと、妊婦が保健従事者のアドバイスを聞き入れないこと、未熟な医師による中絶手術が要因としてあげられると述べた他、新生児死亡については、多くの場合妊婦の健康診断未受診や運動不足及び食事の不足などが要因である旨説明した。(24日:モニター紙 6面)

○ **公共交通機関の運賃、来月から引き上げ**

25日に発表された官報によれば、9月1日付で公共交通機関である相乗りタクシーが6プラ、コンビ(Combis)が5プラ、スペシャル・タクシーが29プラに値上げされることが明らかになった。(27日:デイリー・ニュース紙 1及び3面)

○ **新型コロナウイルス感染者は累計1,724名、死者6名(31日時点)**

ボツワナにおけるCOVID-19の発生状況(8月31日18時30分時点での政府発表)は、(1)累計感染者数:1,724名、(2)国境の検査で陽性となり、それぞれの国に帰国済みの者(トラック運転手等):1,023名、(3)国内感染者数:701名、(4)(3)のうち、累計死亡者数:6名、(5)(3)のうち、治療中人数:202名、(6)(3)のうち、治癒者数:493名である。(31日:ボツワナ政府発表)